

## ジオダブルサンド工法の特徴

- ① 本技術は、補強シートと防水シートと透水管によって構成される。
- ② 今までの技術は、自然のエネルギーを閉じ込めようとする工法だったが、自然のエネルギーを逃がすという、新しい発想の工法である。  
つまり、地震時の流砂現象による間隙水圧を透水管に導き消散することで、噴砂を地表に出さないという理論である。
- ③ 震度7マグニチュード9の砂層(東日本大震災の浦安市)を想定し、遠心載荷試験を実施した。無対策の場合初めの20秒でアスファルトが破断し、液状化が発生した。ジオダブルサンド工法を施工した場合、20秒・20秒・100秒・100秒・200秒・400秒計6回の試験においても、最後までアスファルトが破断しなかった。
- ④ 上記試験の結果では、おどろくべき強度が立証されている。
- ⑤ ジオダブルサンド工法は施工が早く、価格が安く、強度が高い工法である。
- ⑥ 地下埋設物の不具合にも、部分補修が可能であることから容易に対応できる。
- ⑦ 従来ある他の工法は、巨大地震が発生した場合全ての施工のやり直しが必要となる。
- ⑧ イニシャルコストが、安価であるうえ、ランニングコストもほとんどかからない。
- ⑨ 浅層噴砂発生する事態では防水シートで、水を完全に遮断し、等分布荷重で力を分散するため不等沈下を最低限に、くいとめる事ができる。
- ⑩ 本工法を施工することで、液状化対策・軟弱地盤対策・不等沈下防止・凍上災対策等の多岐に渡る効果を得ることができる。
- ⑪ 道路上に施工すると、緊急避難道路の安全を確保できる。  
駐車場に施工すると、安全・安心な避難場所に変えることができる。
- ⑫ 本技術は、一気にすべてを施工することなく、予算の範囲で段階的に施工していくことも可能である。
- ⑬ 地震時には道路や駐車場の安全を確保し、平常時には地盤の圧密沈下を防ぎ、アスファルトの長寿命化に貢献できる。